



用子表紙

用子表紙



2132
82



13
2132
82

序
 浄純の波に安き晒棹法
 浮氣五人旅の橋を乞はと
 人で二歩失る痴恵ゆする
 子柀点乃妙句中尚と五人
 奇ありき余七拾五人の是



癖ちもえ也ま其ま少すくく廣ひろのの墨すみととも
一ひと糸いと織オリどどくく心こゝろ多おほくく同おなじじ如ごと西さい塔たつ
ままくく手て色いろ取とりりありあり乃な玉たま黄わう染せんの
布ぬい代しろ衣えのの襷たす満みととももほほ込こ込この
能よ益えき互たが青あお糸いと小こ糸いとととかかいいるるし
男おとこ身み置おけけ物もの洗あらいい曝さらのの水みづ浅あ黄わう也や

流なが二に世よもも三さん世よもも薄うすままどどとと極ごく下げ
のの脚あし置おひひるる赤あか起お清きよららもも行ゆくく
毎まい夜よ小このの稲い妻づまのの手てのの白しろままもも振ふる
雷かみなりぬぬ身みれれ奇あま情なま迷まよひひのの雲くももも思おもふふんんれ
かかよよくく花はなをを廓くわくふふ面めんののもも美みかか團だん
ふふ人ひと名な家かとと穴あなくく押おささをを平ひらハハ蓮れんの



甲子

甲子

剛こわに落跡おちあとえも先さき々々つらつらと替かわ
 へぬ清きよ淫いん文ぶんの真まの黒くろれ下した染ぞめ丸まる
 の通とほや〜々〜

梅暮里

音家自序

追お跡とをり
 染ぞ巾きんのひ乃の
 音おと向むか



目録

○ 安野平兵衛
似城奥州
極京千右衛門
似城代春

○ 雷庄九郎
似城玉葛

坐敷ざしきの契話ちえわ

恪ま氣きの争あそび



○布袋市ちろ
似城九重

とこ
しの
ごと
牀の睦言

○下金文七
似城嘉代川

おん
あ
うて
眞の仕立

目録終

甲子夜話

梅暮里谷我著

○安野平島
傾城奥州

極平千右衛門
傾城代春 坐敷の契話

高客甲子と念り事 福成得人事と忍ひて持

唱妓損とせん事 紙押りして色客と抱へり

のころより云侍もぢく面うつらき紙ふせぐ

までのうらささしうもたも突の解情とて寄集る

い真況がごうたむら 玉着 おめさんごうららごん

そのよきものもあつたがあらはなれど大悪
さんよごちやうせん一いつ一のちられ
秘人とらしてよきものを大悪さんふうしを
つゝた^{大悪と}押ひきんのてつのでたき人^{おろし}
きんごのちんせいのちのであきん^{おき}
ありしてよきたねて一いつ代々まきんのか^{ちぢ}地々
おろしたぬ^{代々}アイヤ^{かた}それがあつた^{とだ}と
ねくちやうあつた^{かた}あつた^{あつた}のちんせいのちんせい(大悪と

うけつていづちたつたあつたあつたあつたあつた
悪ハ^トこへるぢやうあつたあつたあつたあつたあつた
いしあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
うちあつた^{あつた}あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
千^よあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

りついでにわんてし風が吹くかきしるゝまふくぐんて
 んが能九とあふのをかてやうてくんねなな
 けんあつまて銭あつたんとめんゆりたか
 ませておらんあへまなほ
 ねまふらるせらふよに流るゝい
 っしーあふくうまのせうたし
 りあひせん 千 ラット 一 んやんまら城さうめ
 せうまふらるせらふよに流るゝい
 っしーあふくうまのせうたし
 りあひせん 千 ラット 一 んやんまら城さうめ

せうまふらるせらふよに流るゝい
 っしーあふくうまのせうたし
 りあひせん 千 ラット 一 んやんまら城さうめ

おりきん分の意いゝおるともねりーうくあう
 せんいつそらうてめんま
 らうまふらるせらふよに流るゝい
 っしーあふくうまのせうたし
 りあひせん 千 ラット 一 んやんまら城さうめ
 と 千 とんてあつたまふくぐんて
 くれーあふくうまのせうたし
 らうまふらるせらふよに流るゝい
 っしーあふくうまのせうたし
 りあひせん 千 ラット 一 んやんまら城さうめ

八幡やぐら **玉書** ねがらひのゆい **何** **良** **平**

おはしふかそれでもなさんこれ福くつてま
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
くかんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
んもふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
いおそくつて角ならさんが出さんしんしんしんしん
は仲の所へお出さんしん **玉書** ねがらひのゆい **何** **良** **平**
川さんの件次第さんであつた **何** **良** **平** **七**

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
さんゆらうくんの氣ばらうしんしんしんしんしん
あひまんしん **玉書** まのえ子のぶんしんしんしんしん
がらひしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん **平** **人** **の** **の**
までうらちかつておくがら **玉書** ねがらひのゆい **何** **良** **平**
とあつてよきしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん **平**
もかきゆい **玉書** の手ぢやあねんしんしんしんしんしん **平**
ならみともあわりんしんしんしんしんしんしんしんしんしん **何** **良** **平**

のまゝに... ちで... まら... であ... 義理... しく... 此...

腹... にお... ひも... 船... や...

うらやま(itchimaw)をいかにof townの
 知(おぼ)がた(itchimaw)の(itchimaw)の
 か(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 との(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 さん(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 が(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 かの(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の

や(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 知(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の
 ち(itchimaw)の(itchimaw)の(itchimaw)の

目下

かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜

かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜
 かしこ〜
 り〜
 あ〜

おしんまはさんかたが破船さしよま
このてい玉音それし又新法しよの
しんしんしんしんしんしんしんしん
新法おしんま今うはさんかたが破船を
おしんましんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

てまや千 大いびくしんしんしんしんしん
ちのちやくしんしんしんしんしんしんしんしん
雷は九音の
気珠玉音 気の手
河豚の仕とくしんしんしんしんしんしん
ふしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

といふはなほしきも、
 であのむらさき油（そで）のつはぎや、**玉着**は
 ぐりぞ**玉**、くさるうつちやうてあま
 やなうつぎや、（先ちやうのくわと
くしてはぎくさる）**玉着**よまや
 つまよ**玉**、そんあつたれものまほまが
 つてひらうのま（アトてしとらうのま
ひをがらうてま）**玉**、まじ
 ろ（くわ）振（か）ぐらうてま（ア）くさるうてま（く）けら
 ん（も）ち（わ）り（け）ま（と）ら（の）ち（あ）つてま

廿

せら（玉）る**玉**、か（ま）ち（か）ん（一）、**玉**も（さ）ら
 んぐ（の）んで（ま）い（で）ま（ん）、た（ら）う（に）の（と）
 執（ま）ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 執（ま）ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃
 ら（い）ぬ（ら）ぐ（ら）で（お）と（玉）、そ（ん）か（ま）真（た）乃

目録

くらぬおぼやうの玉音 けくくくくくくくくくく
 もくけくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 おなりれがほくくくくくくくくくくくくくくくく
 わくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 情くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

みおちんさんごうくくくくくくくくくくくくくくく
 ておきおれぐくくくくくくくくくくくくくくく
 づんくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 んはぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ちやアかういせん 大けあがあつれくくくくく
 るにちてあけいあんておわくくくくくくくくく
 しくかぐくくくくくくくくくくくくくくくくく
 どのいけくくくくくくくくくくくくくくくくく

市 ア 毒代川さんかんが酔よてうろくよ
とどどぐいずといくかき **カキ** ようおによ

うま **金文七**

傾城毒代川

真まの仕ま打うち

毒代川の浜よまひ仲の所よりうろくろくろれの毒を(やういれ
まやく角丸いたいこけやくをひられ毒代川の毒(やういれまこ
浜田川 毒代川いんごふした **あま** 毒 **いんご** たま
あぐいまはりのよひん味まんした **角** それい
ら天あままぐいりつてもはまいれまかんと思つた

うア、ようよのんこ**に**おいらんも且ま形かたの酒さけの
おまゝありあまこゆいよ。氣き張はりゆるしてあつ
いめさ **えん** アいサ らやまうてついのいえ
—たのこ **角** それでも仲の所とあまひてま
らぬ—まがた **た** それといふがん持もりくよま
つ—れよそあう—のむ酒さけかど毒どくま
のらじよりませんりてん—わども日ひの
お—たてら肉にくでのむ氣きもあんまうま

おやふんころもまごのこもあたまうのあんまり
かきんあーいよまていぶくさぶくあひるん
[五代川] それでもちんごころぶとねやてい
つておごいよま [伴] そのまじみらんあくなつて
そのよーに酔ちてちうたうあまのま [五代川]
ちうのまおまのまのまのまのまのまのまのま
くおまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
ふんかんーいんそまのまのまのまのまのまのまのま

ふんかんあひるんまのまのまのまのまのまのまのま
伊そのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
[五代川] それでもちんごころぶとねやてい
くおまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
あひるんまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
[伴] ようよなまのまのまのまのまのまのまのまのま
がよひ [五代川] それでもちんごころぶとねやてい
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
[五代川] 伊

ほんでおとく人 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
のんごまききき 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
ねがまらむ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
や 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
と 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
その 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん

い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
い 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん
あ 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん 侍 人 ぼんぼん

其代門ハワケノ... 其代門 波の津

りりそとう... 其代門

おくんぢん... 其代門

あがりあん... 其代門

だより... 其代門

さんのお... 其代門

あ〜文... 其代門

れめ... 其代門

んが... 其代門

ま... 其代門

い... 其代門

文... 其代門

あ... 其代門

あ... 其代門

て... 其代門

の... 其代門

人々文あるにせぬといはへんは
あるらうらわれやこれやいふらう
されわれやどの事なり氣がし
よのこれやどの事なり氣がし
ようゆき〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
といふははははははははははは
り〜りのものなり〜りのもの
情のなりよ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ

山

いふにたうがうらうらうらう
さう〜さう〜さう〜さう〜さう
やうな事なりあるらうらうらう
の客人とらうと扱もたらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
ありやうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
らんらうらうらうらうらうらう
らんらうらうらうらうらうらう

山

かきかきおのろづりいりてと南なづが
 中身くくられしはかたれり
 ぬいげう客ごちりとゆり
 西でせらひりせうき耐らとみる
 しらんいさうーのでおろしらけ文々
 子言まとりをけるおの
 めるこころおろせんれりえん
 きあん一牛のりう
 文の麻ヤとるめりてい

甲子夜話大尾

跋

直練ハ愚心因らーく
 那理地菅屋のあまら
 みのよ面管商奴の年
 葉らとる
 店ららて面店ねえ
 ヤ

田

くらし初らば知らず高深の地
 とも思ふは見えぬ城あるれ
 甲子持結る事手跡の下
 考へて考へて

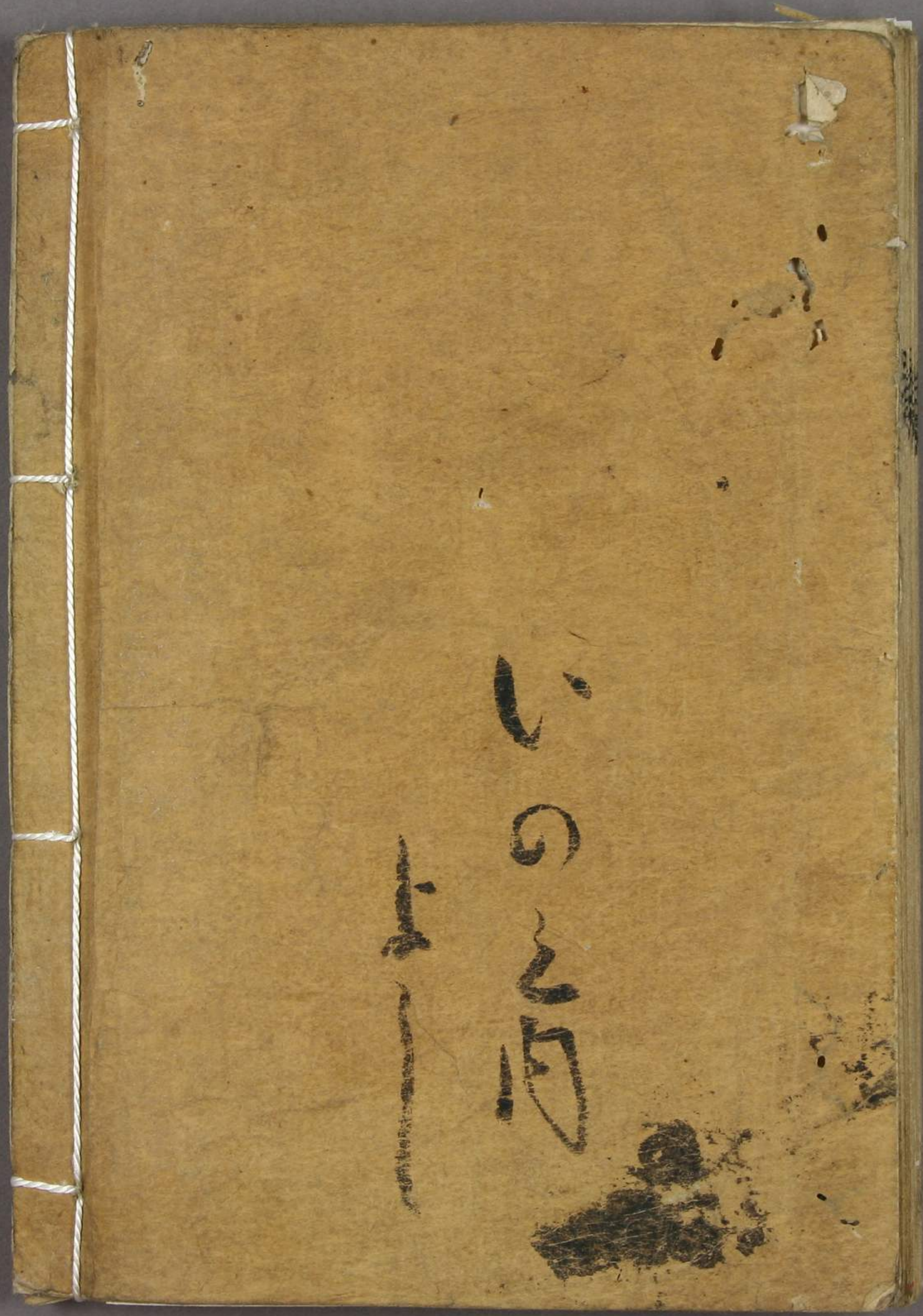
通受本まは述
 成

享和元

江戸西久保新中書所井上

いのち

1111



Handwritten text in black ink, oriented vertically. The characters appear to be in a cursive script, possibly Chinese or Japanese. The text is written on the right side of the cover, near the spine. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but they appear to be arranged in two columns. The top column contains a few characters, and the bottom column contains a longer sequence of characters. There is a large, dark smudge or ink blot at the bottom right of the cover, partially overlapping the text.